■シリーズ「がん治療最前線～がんと生きる～」

医療連携の充実が鍵

第1回「がん治療パスの構築 ～どこにいても最良のがん治療を受けるために～」

働ける治療環境を メンタルも支えて

関原　杉本

情報過多の現代、人々はどのようにがんを発見し、どのように治療すべきか、最新の正しい情報を求めている。最近では、がん診療連携拠点病院と地域のかかりつけ医が連携して、がん患者を治療する地域診療連携（病診・病病連携）が全国で進められている。自宅に近い医療機関で診てもらえる利便性や心強さは利点だが、大病院でないと最適な治療が受けられないと考える人も少なくない。今回は、専門の医師の視点から群馬県のがん治療における地域連携の現状や展望について話し合ってもらった。医療相談や公開講座を通じてがん情報を提供しているNPO法人群馬がんアカデミーが、より多くの県民への情報提供を目的に座談会を開き、2回シリーズで紹介する。

出席者
群馬大大学院特任教授　浅尾高行さん
群馬中央病院外科主任部長　内藤　浩さん
日高病院長　関原哲夫さん
群馬がんアカデミー副理事長　杉本ゆかりさん
（進行）

杉本　がんは働き盛りの成人や高齢者に多い。現状と課題について聞きたい。

浅尾　2人に1人ががんになる時代。原因のひとつは高齢社会。2025年には大変な高齢社会が到来し、医療と福祉の連携が重要になる。

関原　男性は前立腺がんが多く、25年には日本のがん発生数第1位と予想される。

内藤　女性は大腸がんの急増が目立つ。有効な治療法が増え、がんを持つ患者さんのライフスタイルも変わりつつある。

■治療の標準化

杉本　がんと診断され、「大病院にいかなくては」「どこにいけば最善の治療が受けられるのか」と悩む人もいる。話題の地域連携、がん診療連携拠点病院とは。

浅尾　07年に制定されたがん対策基本法では、どこでも質の高い同じ治療が受けられる「均転化」が推奨された。それを受けて標準治療の手引書であるガイドラインと全国にがん診療連携拠点病院がつくられた。県内には群馬大病院をはじめ10カ所ある。また、群馬中央病院（前橋市）、日高病院（高崎市）など拠点病院に準じた群馬県がん診療連携推進病院も7カ所ある。

がんの治療は「手術して終わり」ではない。再発リスクを抱え、長期にわたって定期検査や治療・ケアを続ける。すべてを一つの病院で行うことはできない。拠点病院を中心とした地域連携が求められる。

杉本　家の近くで適切な医療を希望する人は多い。

内藤　がん治療の流れを見ると、まず、かかりつけ医から拠点病院や推進病院を紹介され、手術などの専門的治療を行う。病院での治療が終了したら、かかりつけ医で一般的な投薬や検査を受け、定期検査や異常のあるときは再び拠点病院・連携病院に戻る。こうした連携はできている。それぞれの役割分担を明確化した「地域連携クリニカルパス」も運用されている。「パス」とは工業用語で、工程表、予定表のこと。それを医学に応用したのが「クリニカルパス」で、医療の標準化や事故の防止に役立つ。

浅尾　がん治療には、フォローアップ、定期的検査が必要とされるが、その予定表を「パス」と呼ぶ。

浅尾高行（あさお・たかゆき）　群馬大医学部卒業後、同大大学院病態総合外科（第一外科）准教授を経て、同大大学院がん治療臨床開発学講座特任教授。同大病院TR副センター長を兼務。専門は、大腸の外科、鏡視下手術、腫瘍学、がんの転移の研究。

内藤浩（ないとう・ひろし）　群馬大医学部卒業後、同大第一外科助手などを経て、地域医療機能推進機構群馬中央病院医務局長兼地域医療連携センター長兼消化器・肛門疾患センター長兼外科主任部長。専門は、消化器外科、特に大腸外科。地域連携にも関わる。

「安心と信頼」で寄り添う

包括的にサポート 在宅までリレーで

浅尾　内藤

杉本　患者のメリットは。

内藤　拠点病院や連携病院には、地域連携センターがあり、地域のクリニックとのつながりを強化し、顔の見える連携づくりに努めている。

病院は疾患別、臓器別に高度の専門性を求められており、患者さんの全身を把握してくれるかかりつけ医の役割は極めて大きい。一方、かかりつけ医からは、地域連携センターを通して病院の外来や検査の予約が可能であり、病院での待ち時間の短縮が図れ、適切な専門医の診察が受けられる。

杉本　治療の標準化の具体例は。

内藤　大腸がんでは、腫瘍部位やステージ別に治療の流れが決まっていて、拠点病院なら標準的な治療が受けられる。

杉本　がんは、自分だけではなく、家族や職場にも関係してくる。

関原　氾濫した情報の中から、確度の高い信頼できる情報を見つけることが重要。

かかりつけ医がいない人には、国立がん研究センターのホームページ（http://www.ncc.go.jp/jp）をお勧めする。一覧が掲載されている拠点病院や連携病院にはがん相談支援センターがあり、専門の教育を受けた看護師・相談員が適切な情報を提供する。

関原哲夫（せきはら・てつお）　群馬大医学部卒業後、同大泌尿器科に入局。同大泌尿器科助手、日高病院泌尿器科部長、同副院長などを経て、2013年から同院長。群馬大病院臨床教授。日本泌尿器科学会専門医、指導医。日本透析学会専門医、指導医。専門は泌尿器科。

杉本ゆかり（すぎもと・ゆかり）　中央大専門職大学院戦略経営研究科修了。医療系国家資格養成校校長を経て、NPO法人群馬がんアカデミー副理事長、現代医療問題研究所長、オフィスルーチェ代表。専門はコミュニケーション論、患者満足度研究、人材教育・開発など。

浅尾　県が発行した『ぐんまの安心がんサポートブック』も便利。患者のパスやサポートについて分かりやすく網羅されている。

杉本　仕事をしながら治療を続けるための取り組みも不可欠だ。

浅尾　外来での抗がん剤点滴治療も、治療日には仕事を休まねばならないという欠点がある。そこで関原医師と協力して新システムを考えた。

関原　日高病院では全室個室で受付から採血、治療を一箇所で受けられる化学療法センターを新設した。仕事帰りに午後6時から治療を受けられる夜間治療システムも導入し、治療日も仕事を休まないで済むようにしている。

■遠慮は無用

杉本　診断や治療法を確認したい、また、納得できないときにセカンドオピニオンがあるが、他の医療機関への受診は担当医師に遠慮して躊躇（ちゅうちょ）しがち。

内藤　最近の医師はセカンドオピニオンに抵抗感はない。自分の勉強にもなり、他施設の意見も聞きたい。ただし、進行の早いがんもあり、その場合には注意が必要である。

杉本　セカンドオピニオンの手順は。

内藤　具体的に行きたい病院があれば、紹介状を書く。心当たりの病院がない場合は、相談に乗って専門医を紹介している。

浅尾　セカンドオピニオンの基本は、画像診断、採血結果、病理診断などの医療情報を含めた紹介状があること。そうでないと、判断できない。

■必ず再検査を

杉本　検診で再検査の指示が出ても、後回しにしてしまうケースも少なくない。どうすればいいか。

浅尾　進行がんの手術患者に聞くと、2、3年前から便潜血が陽性だったというケースもある。

内藤　10年前は手術で助かるがんを見つけるのが検診の目的だったが、今は開腹手術をしなくても（内視鏡治療で）助かるがんを見つけるのが検診の目的。

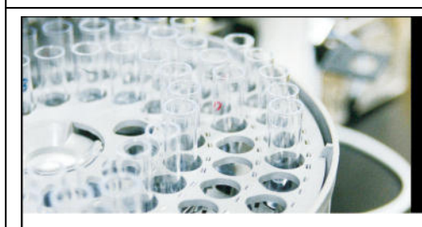
関原　早期発見・早期治療が、何よりの治療だ。人間ドックにも多種多様なメニューがあり、がん検診を組み込んだメニューを勧めたい。

杉本　早期発見には、検診を受けることが第一。再検査が必要なら速やかに受けてほしい。

次回は、標準治療では対応できないがんの治療や最先端医療について取り上げる。

（左から）内藤浩さん、浅尾高行さん、関原哲夫さん、杉本ゆかりさん

『ぐんまの安心がんサポートブック』
がんに不安を感じたり、心配している人々に向けたガイドブック。相談窓口やサポート制度などをはじめ、がんに関わる情報が満載されている。ホームページ（http://www.pref.gunma.jp/02/d2900291.html）からもダウンロードできる。問い合わせは県健康福祉部がん対策推進室（☎027・226・2614）へ。



群馬大学大学院医学系研究科
がん治療臨床開発学講座
Department of Oncology Clinical Development Gunma University Graduate School of Medicine

「最適な新規がん治療をいち早く実現する」こと
「がん治療を受けられる患者さんの負担を少しでも軽くする」ことが、
私達の使命であり、切なる「願い」でもあります。
特任教授　浅尾高行

がん治療臨床開発学は、平成25年8月1日に誕生した新規講座です。群馬大学医学部附属病院TRセンター内の「先端医療科」での診療と基礎的研究をリンクさせ、新しいがんの治療法の開発を通じて有効な治療をいち早く患者さんに届けることを目的としています。
〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22
群馬大学大学院医学系研究科　がん治療臨床開発学講座

〈開発対象〉
具体的な開発内容は次の3つです。
1）がんの治療法の開発
2）がん治療を円滑に行うための治療システムの開発
3）がん治療を担う医療人の育成

Gunma Cancer Academy
特定非営利活動法人 群馬がんアカデミー

市民・医療従事者・医学部等学生にがんを中心とした
医療全般の人道的・社会的・文化的・教育的活動を行い、
社会福祉に寄与することを目的とした事業を実施致します。
設立　平成16年12月15日

〈事業活動〉
1. 市民へのがんの知識の普及・啓発及び検診の必要性の啓発を行います。
2. がん患者さんへの専門家によるカウンセリング及び患者家族の皆様へのサポートを行います。
3. 医療従事者に対する教育・支援及びがん研究への助成を行います。
4. 関係機関への助言、情報提供を行います。
5. 行政機関との協調、連絡を行います。
6. 国際協力活動を推進します。

お問い合わせ
NPO法人
群馬がんアカデミー事務局
TEL.027-220-8224
FAX.027-220-8230
ご連絡／平日9:00～17:00